

運のそば

秋田県・主婦

太田部明子

私の「麺」にまつわる思い出を紹介します。私が物心ついたらこの頃は、祖父、祖母、今思うと亭主関白を代表する父、優しい母、そして兄、弟の7人家族でした。我が家は大晦日に、必ず家族全員で年越しそばを食べる習慣がありました。通称「運のそば」と言っていました。私の大晦日の一番の楽しみで夕食の他に夜中にも大好きなそばを食べられるからです。父はそばを前にして必ず「来年も細く長く家族が健康で幸せであるように」と話すのですが、私は父の話よりそばが気になりそわそわしてた記憶があります。そばを作るのは祖母と母が担当でした。それがいつしか祖母が台所に立たなくなり、母1人で作っていました。中学生になり私も母の手伝いをし年を重ねるたびに、そばの器の数が少なくなり、母よりも私の口数が多くなってきました。また頑固な父の年越し言葉も「じゃ皆でそばを食べようか」と変わっていききました。私が就職してからは、母が台所に立たなくなり、兄も独立し家族が少なくなりました。父はますます優しくなって年越しの言葉も無くなり、「お前も早く作って一緒に食べよう」と言うようになり、ちよっぴりさみしく思った事を覚えています。

祖母から母へ引き継がれた我が家の運のそば。そして母から私に引き継がれた運のそば。私も嫁いで23年今は、実家と我が家を行ったり来たりしています。師走になると店先で年越しそばを目にします。今は亡き父の事が思い出され、年老いた母をもっと大切にしてあげたいと心から思います。

私には高校生の娘がいます。母から引き継いだ運のそばを2人で仲良く作っています。私の人生の中で忘れる事の出来ない大切な思い出の1つになっているのです。

奨励賞